

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 5 月 2 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋		
所在地	岐阜県各務原市須衛町3丁目151番地 (電話) 058-370-1200		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 2 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 10 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 15.2 人	

### (2) 建物概要

建物構造	PC+S 造り		
	3 階建ての	1 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	3,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (退去時修復残金)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 2 日 現在)

利用者人数	24 名	男性	2 名	女性	22 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	7 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	64 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

耐震構造の3階建てのホームからは、季節が感じられる田園や林が一望でき、立地環境に恵まれている。広い生活空間は、窓も多く眺めがよく開放的で、利用者に安らぎをあたえている。法人運営者等と検討し、副食を法人施設で作ることとしたため、身体機能の変化に対応したケアへの時間を確保できるようになった。望めば終末期医療の対応ができる事から、本人・家族からの安心と信頼を得ている。終末期に入ると予測される場合には、職員への勉強会、精神的支援体制もあり、職員からも信頼が寄せられている。老人保健施設やケアハウスが隣接し、法人の関連医療機関や職員とも連携しており、介護や医療、研修等人材育成に対する職員のバックアップ体制をつくりあげている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特に挙がっていなかったが、毎年利用者にとってどのような支援が適切なのか等、法人・ホーム関係者等職員全員で取り組みについて検討する真摯な姿勢がある。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットの職員は、年間2・3回ユニット間での異動があるが、ユニット長の異動は無い。各ユニットごとに責任者と職員で自己評価に取り組んだ。前回外部評価との結果とあわせ、今後のケアへの取り組みを見つめ直す機会と考え取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回開催し、地域の役員や家族も参加している。ホームの状況報告が主であるが、介護度の意味や認知症の症状・行動についての勉強会となったり、どのような行事を行っているか、また、ヒヤリ・ハットの報告とその再発防止のための対応経過報告をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年間2回の家族アンケートを行い、意見の集約、検討結果を家族会で報告している。意見箱を設置したり、ホーム訪問時の家族との会話を大切に、聴き取りを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として自治会に加入しており、回覧板が回ってくる。地域や市との交流は法人を窓口として積極的に行われ、利用者が地域の行事に参加したり、地域への外出や散歩時に地域の方から声をかけてもらっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に「ここが一番 安らぎと安心の住まい」を理念に掲げ、さらに、1年間の支援目標を「地域住民の一員として、平凡に暮らし続ける」と、ホームの職員全員で検討し、決定した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行われるユニットごとの会議や勉強会、法人全体で行う全体会議と多くの機会、理念や目標に向けた実践の取り組み状況の報告や確認を行い、職員間で共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は、法人単位で取り組んでいる。資源回収や季節の祭り、地域の公民館で開催する「ふれあい広場」に利用者も参加し、地域との交流が継続している。自治会の役員が運営推進会議に出席し、認知症の話も地域に伝わる糸口ができてきている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義をよく理解しており、各ユニットの職員で自己評価を行った。自己評価・外部評価での改善課題は、運営者に報告し、全体会議で取り上げ、職員全員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催し、ホーム状況や実施行事、ヒヤリハット事例と再発防止の取り組み等の報告を行っている。市職員、包括支援センター職員、民生委員、自治会長、区長、家族代表とホーム職員で構成し、認知症や介護度の理解を深めるための勉強会も行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人に総合窓口を設け、法人単位で市との連携が取れるように組織化している。「福祉フェスティバル」への参加、住民ボランティアの受け入れ、実習生の受け入れ等、市と相談・連携しながら進めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットごとに作成された毎月の行事計画・近況・暮らしぶりの報告が毎月の金銭出納報告時に行われている。行事や日常を写した写真も掲示しており、訪問した家族はいつでも見ることができる。各ユニットの入口に、職員の紹介が写真入りで行われている。	○	各ユニットごとに、行事の案内等の報告を毎月行っているが、更には、利用者ごとの暮らしぶりの状況報告をすとか、家族はどのような内容の情報や報告の方法を求めているのか等を検討する取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、年2回の家族アンケートを実施している。また、家族会での報告や日常でのホーム訪問時の家族との会話の中から苦情・意見を聞き取り、できるだけ迅速に対応している。	○	様々な機会をとらえ、意見の聞き取りや報告はされているが、ホームに届いていない家族の声もある。専門職の言葉と家族の言葉との意味に差がないか等を検討する取り組みも期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代はないが、職員の資質向上を目指し、ユニット間で3ヶ月に1回の異動がある。各ユニットの入り口に、職員の顔写真を掲示し紹介したり、家族訪問時に紹介している。	○	家族の訪問時での紹介や顔写真の掲示があるものの、家族への情報伝達がうまくいっていないことがある。さらには、家族側から受け取りやすい情報提供の方法を検討する取り組みも期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者教育は、法人で計画している研修が行われ、中途採用や経験の浅い採用者には、経験者が1対1で指導するシステムがあり実施している。各種研修は、目標達成までの期間や達成度を確認しながら実施され、職員の資格取得を法人として応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、岐阜県グループホーム協議会の研修会に参加するとともに、研修で顔見知りになった他のホームと交流し、意見交換する等相互交流もある。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のデイサービスやケアハウスの利用からホームに入居希望する人が多い。1週間通ってみて、他の利用者との関係も含め様子を見て入居を決めている。また、1週間程の有料体験入居もある。入居前の聞き取り等を活かした入居後の支援で、3ヶ月ほどでホームの生活に馴染んでいける。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	3階建のホームは、全体に広く、テラスでは花や野菜を作ったり、バーベキューが楽しめる。個人の力に応じて職員と共に色々なことを行い楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握されている利用者の暮らし方や趣味、思いに対応する数々の品が各ユニットごとに用意され、利用者の現在の力を把握しながら日常活動を作り出す支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議でどのようなケアが必要になっているかを話し合うとともに、本人・家族の希望を確認し、リーダーや上司にも相談している。本人の身体状況により、医師、看護師、理学療法士、栄養士等法人の専門職の意見も聞き計画が作成され、最後に再度家族に確認が取られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のユニット会議やサービス担当者会議で本人にとって必要なケアや支援について話し合わせ、基本的には3ヶ月おきに見直しを行っている。また、病気、転倒、骨折等特別なことがあれば家族に報告し、随時、介護計画を作成し直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行政や住民との関係づくりを法人単位で取り組んできたことにより、地域の行事に参加しやすくなり、地域からボランティアが訪問するようになった。また、法人の関係施設の機能を活用し、専門的な意見や技術の提供を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師による往診や週1回の看護師による定期訪問に加え、随時の受診支援が実施されている。法人の医療機関に受診の場合は、職員が支援し、他の医療機関へはNPO法人の移動サービスを活用したり、家族の代わりに職員が支援する等柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調が不良になった場合は、家族や医師とよく話し合い方針を決め、職員間で意向や方針を周知し支援していく。終末期のケアは、以前から法人で勉強会を行っているが、事例がある場合は、さらに、準備の勉強を行う。担当職員への心理的サポートは職員間やリーダーで行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴の度合いが重くなった利用者には、耳元での大きな声かけとなるが、トイレの誘導等配慮の必要な内容の場合は、話す場所を変え工夫している。書類等個人情報には法人の規定に基づき保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の暮らしぶりを把握した上で、日ごろのケアの中でも、利用者の思いを聴き取っている。職員と利用者がテーブル卓球や野球観戦を共に楽しみ、おしゃれ好きな利用者は化粧を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者身体能力の低下に伴い、共同での調理が困難なため、副食が法人併設施設で作られるようになり、食事ケアのための時間が十分取れるようになった。ご飯や汁物、食べやすくする手間をホームで行い、配膳や後片付けは、見守りながら利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂が好き、毎日入りたい、長風呂、タイミングが難しくなっている、シャンプーがいつまでも止まらない等、個別の利用者の特徴に配慮し入浴を支援している。またぎが困難な人には、足浴やシャワーの利用で対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会や出前をとるなど日ごろから楽しみごとが沢山あり、メリハリのある生活を送っている。畑で野菜を育て、その収穫を役割として楽しんでいる。職歴での得意を生かして活躍できる場の設定も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月の行事の中で、外出も計画しているが、日常的に、ホーム周辺を散歩するコースがある。ユニットごとの支援であるが、他のユニット利用者を見て出かけたくなる場合にもできるだけ対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングからベランダに通じる出入りは自由で、開放されている。外部への出入り口は、利用者にそれと分からない様な建物構造となっている。また、職員は常に利用者の動きに気を配り、施錠は一般と同じである。利用者の外出希望には、迅速に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で消防署と行う大規模な年2回の訓練と、ホーム職員のみで3ヶ月に1回の訓練を行っている。夜間を想定した訓練では、利用者の移動時間や連絡所要時間、1人での誘導方法の検討や利用者の非難後の安全確保等多くを検証している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に栄養バランスを相談し、摂取量や体重測定を行い全体のバランスを考慮している。ホームで利用者の身体状況に合わせた食事形態に加工している。朝食は、ホーム独自の献立とし、利用者の摂取状況に配慮した食事としている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の広いベランダにはいつでも出られ、季節の花が置かれ、皆でバーベキューも行っている。リビングにある畳コーナーには家具や裁縫道具を用意し、洗濯物を畳んだり、踊りの発表の場ともなる。畳の下は収納スペースとなっており、宿泊家族用の布団も納めてある。床暖房や窓の開閉により、温度や換気に配慮している。絵画も多く飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入り口を少しずらした構造になっており、個人の目印が視界に入る。家族の協力もあり、馴染みの品や本人が以前製作した作品、家族写真、友人との写真、仏壇、毎日の記憶を記載したカレンダー等に囲まれた居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。